

2013年第2次 訪中団

中国内陸部の中核都市武漢を訪問して

～新しい訪中団の予感～

日 時 2013年11月2日～6日

訪問先 武漢 参加者 13名

長江の中流に位置する武漢は、中国政府が56の国家ハイテク産業開発区の中で最も重点的に強化している、成長著しい都市です。観光地としては、黄鶴楼、武漢長江大橋、東湖とロマンに溢れて、人々を感動させます。また、三国志の赤壁の戦いの舞台も近く、日本人にもなじみの深い地域です。

武漢は、面積が、埼玉県、東京都、神奈川県を合わせた大きさで、人口は980万人、流動人口が少なく、離職率も低く治安も良いところです。市内には84の大学、120万人の学生が学ぶ大学の街として中国中に知られています。

現在は、シリコンバレー構想の先駆として、IT産業が急成長しています。交通の要所として物流センターとしての機能も果たしています。自動車産業も盛んで、今は生産が70万台ではありますが、2016年には200万台を越し中国トップとなるそうです。市内の交通網も急ピッチで整備されつつあり、近い将来地下鉄が8号線まで走る体制となっています。大学が多いこともあり、市内は活気にあふれ、日本語学科もあり人材の宝庫です。ただ、まだ発展の途上の部分もあり、メインストリートを外れると昔の中国もあります。



▲ 工場視察



▲ 樋爪会長の講義風景



▲ 赤壁の視察

私たちは、华中科技大学文華学院(日本語科)の授業参観をしました。学生たちの第一印象は、一人っ子政策の中で生まれた世代であるためか、自己中心的な雰囲気を感じたが、昼食を日本語でするとその印象は薄らいでいきました。教師以外の日本人と接することが初めてという学生たちの目は、嬉しさに溢れキラキラと輝いていました。昼食の会話の中から、素朴さ素直さ真面目さが伝わってきました。

別れの際、樋爪会長のほうから、「昼から私の生の声で短時間でもいいから講義をしたい」と積極的に申し込むと、教師はすかさず「よろしくお願いします」と即興の講義の時間が設けられました。私は残念ながら、次の工場視察のスケジュールのため、この講義は聴くことができませんでしたが、その場に残った豊田さんの話では、100名近い学生の前で、会長は、「人の生き方」について90分にわたり、熱弁をふるわれたそうです。日中関係は政治的には難問を抱えています。こういった試みは、未来ある学生たちにいい刺激になったと思います。会長の提案もさることながら、即座に快諾された学校側にも大いに感動しました。

工場視察という経済交流だけでなく、こういった文化交流の新たな一面も持った訪中団。日中経済交流研究会の範囲を超えて、同友会の運動として広まっていけば素晴らしいと感じました。有意義な訪問ができたことに感謝します。



文：(有)天満合同会計
大塚 教進